

令和5年度 豊中市総合計画審議会(第1部会) 第1回会議 議事要旨

【日 時】令和5年(2023年)10月5日(木)18時00分~20時00分

【場 所】第二庁舎5階第一会議室、ZoomによるWEB会議

【出席者】大野委員、宗前委員(オンライン)、久委員、森委員、石井委員、森山委員

【事務局】藪床都市経営部長

都市経営部経営戦略課：田中、高橋、島、松田、麻田、大重

【傍 聴】なし

【案 件】1. 2023年度(2022年度実施分)政策評価結果の施策シートについて

2. その他

【資 料】○ 次第

○【資料1】令和5年度(2023年度)政策評価結果概要

○【資料2】令和5年度(2023年度)政策評価結果(施策シート)

○【資料3】令和5年度(2023年度)政策評価結果(施策の方向性シート)

○【参考1】第4次豊中市総合計画(本編)

○【参考2】第4次豊中市総合計画(概要版)

○【参考3】第4次豊中市総合計画前期基本計画 行政評価指針

○【参考4】政策評価の考え方とチェックポイント

○【参考5】令和5年度(2023年度)政策評価結果 用語集

【会議録】下記のとおり

■開会

■成立要件の確認(事務局)

本審議会規則第7条第2項に基づき、会議の成立には委員の過半数の出席を必要としています。本日は、委員総数8名中、すべての委員の出席がありましたので、成立要件を満たしております。また本日、傍聴者はいらっしゃいません。

■資料の確認(事務局)

■案件1. 2023年度(2022年度実施分)政策評価結果の施策シートについて

部会長

それでは案件に入りたいと思います。案件1について事務局から説明をお願いします。

事務局

(【資料2】令和5年度(2023年度)政策評価結果(施策シート)について説明)

部会長

それでは、順番に施策シートを見ていきたいと思います。先ほど、事務局から施策シートのチェックポイントについても説明がありましたので、その観点でご意見をいただければと思います。まず、第1章の1「子育て支援の充実」のシートです。このシートにつきまして、ご質問・ご意見はございませんか。

委員

この施策シートは書きぶりがすべて「〇〇します」と記載されており、現在系になっています。それ以降のシートをみると、「〇〇しました。結果、〇〇な成果が得られ、AまたはBと評価しました」となっています。「〇〇します」と記載すると決意表明のようなものになってしまいます。そうではなく、これはあくまでPDCAサイクルに基づく評価のため、「〇〇をした結果〇〇な成果が得られ、AまたはBと評価した」といった記載が望ましいと思います。

部会長

おっしゃるとおりです。「〇〇します」のような今後の取組みを書くのであれば、「〇〇の課題が残ったため、今後は〇〇します」といった記載が望ましいと思います。

委員

施策シートの〇一つ目の文章は、羅列的に5つの取組みが一つの文章に記載されているので、読みづらいです。羅列的にやったことを書くのであれば、箇条書きにするなど、文章の構成を工夫する必要があると考えます。しかしながら、本来は、総花的にすべてを書くのではなく、効果や成果があったこと、その要因を書くことが必要だと思います。マニュアルにも記載があるように、取組みの結果、どういうアウトプット、アウトカムが出たのかが重要であるため、ぜひ、そこを強化して記載いただきたいと思います。

部会長

おっしゃるとおり、〇一つ目の最初の文章は5行で一つの文章になっています。文章が長すぎるため、わかりにくさにつながっているということもあるかと思います。箇条書きや文章を区切るなどし、書き方を工夫すれば、もっとわかりやすかったのではないかと思います。

委員

〇一つ目では、「切れ目ない支援体制づくりを推進し」の後に取組みが羅列されています。「切れ目ない支援体制をつくるために」などにし、支援体制をつくったことと取り組んだことの関係性がもう少し整理できれば良かったのではないかと思います。

委員

〇二つ目は文章の主語と述語が繋がっていないので文章を見直していただければと思います。

部会長

一般的な話になりますが、2021年度に「B」で2022年度に「A」の評価を付けている施策シートが多くあります。施策の方向性シートも、「B」から「A」になっているシートが多くあります。しかしながら、施策の方向性シートの指標の数値を見ると、大きな変化はありません。また、なぜ2022年度「A」になったのかの理由が記載されていません。これまでも「A」だったが、控えめに「B」をつけていたのか、この1年で何かが変わり効果がでてきたため「A」にしたのかが、評価シートから読み取れません。一般的に、理由をしっかりと記載されたいと思います。

先ほどからご指摘もあるとおり、「〇〇がこう変わったから、〇〇の成果が出て「A」と評価した」または、5年間の成果であれば、「5年前から今こう大きく変わり、〇〇の成果が出て「A」と評価をした」と書いてもらうと分かりやすかったと思います。一般的に、取組み(DO)で終わっている文章が多いです。頑張っ取り組んだことはわかりますが、その成果として何がどう良くなったのかが読み取ることができません。こちらは、このシートに限ったことではなく、一般的な意見として返していただきたいと思います。

委員

第1章の1の施策シートに限った話ではありませんが、前期基本計画の総括が記載されていません。今年はいくまでの評価と違い、前期基本計画の最終年度であり、第4次総合計画の折り返し地点であるため、5年間のスパンの中で大きく変わった部分やあらたな発見などいろんな部分があると思います。我々市民としても行政の苦労や継続してきた取組みなどわかれば、親しみを感ず理解につながると思います。しかしながら、これまでの年度と変わらない評価になっており、この5年でもう変わったかが読みとれない評価になっているのが残念です。

また、施策の方向性シートでは2022年度の目標値を掲げています。今年度は最終年度で、結果が出た年ですが、最終年度の実績値について触れられているシートがほとんどありません。数値で出した以上、単に数字を並べるだけではなく、例えば達成率を出して、達成した指標や未達成だった指標について説明するなどし、最終年度の実績にふれるといいのではないのでしょうか。

委員

アウトカムを意識した評価についてですが、例えば、施策シート〇3つ目の、「養育費確保のための弁護士費用を補助し、ひとり親家庭を支援しました」の文章は、「弁護士費用を援助することで養育費確保を支えました。」などといったように、ユーザー視点で書くと、より、アウトカムが伝わりやすいと思います。このシートの施策はエンドユーザーがいる施策が多いです。エンドユーザーがこうなった、またはエンドユーザーからするとこうなる、という視点が必要です。〇一つ目についても、取組みを羅列するのではなく、妊産婦が〇〇になったという視点で記載することで、アウトカムの視点で記載しやすくなるのではないのでしょうか。

部会長

第1章の1(2)の施策の方向性シートの成果の欄の〇5つ目に、養育費確保については、この9月に創設し2件の実績があったと記載されています。施策シートへも、そこまで踏み込んだ記載ができるとエビデンスもしっかりしてくるので、いいのではないかと思います。

また、施策シートの○は4つありますが、第1章の1の施策の方向性は(1)～(3)の3つです。施策の方向性の(1)～(3)のそれぞれを再度コンパクトに評価したうえで、施策シートへ記載する方法も書きやすいのではないかと思います。そのあたりも、今年度評価に向けて、書き方をフォーマットとしてお伝えするといいいのではないのでしょうか。

それでは、次に第1章の2「保育・教育の充実」のシートです。このシートにつきまして、ご質問・ご意見はございませんか。

委員

この施策シートは、先ほどのシートに比べると新しく始めたことがはっきりと書かれているので、前年度からの変化がわかりやすいように思います。ただ、先ほどの委員のご意見のように、施策の方向性に対応した書きぶりに整理されたほうがわかりやすくなるのではないかと思います。

部会長

全般に通じるところですが、何が5年間の柱だったのかに絞って書いて頂くとメリハリがついて、わかりやすくなると思います。例えば、コミュニティスクールの取組みは書かれていますが、その成果がどのように出てきているか、エピソード的なものがあればわかりやすくなるのではないのでしょうか。また「保育教育の充実」についての重点的な施策は何かを絞っていただくとより見えやすくなるのではないのでしょうか。

昨年度の審議会で、全国的にモデル的な取組みであるインクルーシブ教育について触れてはどうかと意見がありましたが、今年度も記載されていません。インクルーシブ教育は継続的な取組みではありますが、全国のモデル的な取組みであれば、もっとアピールするといいいのではないかと改めて思います。また、総合評価はAになっていますが、何が変わったのかがわかりづらいため、担当課に伝えていただきたいと思います。

次に第1章の3「子ども・若者支援の充実」のシートです。
このシートにつきまして、ご質問・ご意見はございませんか。

委員

この施策シートの施策はシリアスなテーマな部分なため、成果を記載しづらい部分ではあると思いますが、取り組んで終わりではなく、取り組んだ結果どうなったのかを少しでも出してほしいと思います。それでこそ、施策名にある「夢や希望」というところにつながります。現状のままでは、市として、支援は充実させたが、若者の生活などが充実したかどうかは見えにくいと思います。

部会長

評価をする際には、市民や委員が何を知りたいかを先に伝えたいので、記載すると書きやすいのではないのでしょうか。例えば、第1章の3の施策シート、○3つ目に庄内コラボセンターの「こども・教育総合相談窓口」の開設について記載がありますが、開設によって何がどう変わったのかわかりたいです。これまでの個別窓口ではなく、総合窓口を作ったことで、どう変わったのかわかりたいですが、そこが書かれていないのもったいないです。いわゆる、たらい回しが無くなり、一

つの窓口で、いろんな面でサポートできる体制になっていると思うので、そこがどのように成果として現れたかを書いて頂くといいと思います。

委員

取組みの効果測定はされているのでしょうか。されていないのであれば、必要に応じてされるといいのではないのでしょうか。

部会長

効果測定がされているか否かが見えてこないため、評価がしづらくなってきていると思います。

事務局

効果測定の有無についての質問についてですが、事業の結果を次年度の計画に活かしていく PDCA サイクルにおいて、効果測定は重要な要素であると考えています。基本的には、この PDCA サイクルに基づいて事業を進めるというところは全庁的な方向性として持っています。ただ、十分にすべてのフォローアップできていない部分もあり、現状の課題認識として持っています。

委員

効果測定の結果がでているのであれば、その結果を記載していただきたいと思います。効果測定の結果、うまくいかなかったのであれば、この部分が有効でなかったので違う手を考えていきたい、などを記載いただければ、最後まで、その狙いや目的に沿って活動されているのがわかるので、是非盛り込んでいただきたいと思います。

委員

この施策シートには、現在、非常に社会的課題であるヤングケアラーについて2か所記載があります。○5つ目の1行目に「ヤングケアラー支援を位置付けました」とありますが、位置付けたことによって市民にとってどんなメリットがあるのかを記載されるとよりわかりやすくなるのではないかと思います。

部会長

今、委員よりヤングケアラーが非常に社会的課題であると話がありましたが、第1章の3の(1)～(3)の施策の方向性シートでは、居場所づくりについての記載があります。こちらも重要な社会的課題になっているので、施策シートにも記載することで、メリハリのある文書になったのではないかと思います。

委員

ヤングケアラー支援は、国より地域包括支援センターで相談体制を強化するよう示されましたが、高齢者の切り口ではなく、子どもの切り口で支援窓口を設定されたというところに市の問題意識やメッセージがあると思います。この5年間では設置に終わりましたが、それによって、今後何が変わるのが明らかになれば、もっとわかりやすくなるのではないかと思います。

部会長

ヤングケアラーは表に出づらい問題です。そこを早急に発見し、支援の手が届きやすくなることをめざしていると思いますので、そこが、今後どのように進むのかを知りたいのです。

またヤングケアラーは学校の先生や地域の方などいろんな方々のちょっとした気付きがきっかけで、発見につながります。そういった気付きを集めるために、子どもに関わるいろんな方々が話し合えるための体制づくりが進んでいるのか進んでいないのかの記載もできているといいのではないかと思います。反対に、やって当たり前の取組みは総合評価の中では落としていくといいと思います。いわゆる特集のような形で、今年1年ではこういうものを特集テーマにし評価しましょう、といったように年替わりでテーマを変えていく方法もあるのではないかと思います。総合評価というと、いろんな取組みを詰め込みたくなりますが、引き算の発想で考えていただくといいのではないかと思います。

委員

第1章3の施策シートの○一つ目のところで「庄内少年文化館」と「青年の家いぶき」が統合し、「青少年交流文化館いぶき」が開館した、と記載されていますが、統合したことによって何が変わったのか、何が出来るようになったかを書いて頂くといいと思います。また、この文章の中では、イベント名の一つである「高校生パフォーマンスフェスタ」が青少年交流文化館いぶきの様々な取組みと並列の関係で記載されています。「高校生パフォーマンスフェスタ」が目玉の事業なのであれば、様々な取組みと並べて出すのではなく、引き算するなどし、整理した方が、わかりやすくなると思います。

部会長

この文章は書いてある内容は、質・レベルにばらつきがあります。そこを整理していただくことによって、粒感が小さい事業は書かないでおこうなど判断が出来ると思います。

それでは、次に第2章です。第2章の1「自立生活支援の充実」のシートです。このシートにつきまして、ご質問・ご意見はございませんか。

委員

施策シートと施策の方向性シートの整合がとれていません。特に、令和4年度に開始した取組みが、施策シートにのみ表現されています。例えば、施策シート○2つ目の、「電球を使った見守りサービスの開始」について、施策の方向性シートには書かれていません。また、施策シート○3つ目の「通学支援サービスの新設」や○6つ目の「庄内コラボセンターの仕事くらしセンターの開設」についても施策の方向性シートには記載されていません。

昨年度の施策の方向性シートを見ると、特に、第2章1の(2)～(5)は今年度と同じ内容が書かれています。去年と同じことを繰り返しやっているため、書き方も同じになっているとすると、行政評価の目的や狙いが意識されていないように思います。その結果、問題意識やそれに対する今後の方針、改善策の発想につながりにくくなっているのではないかと感じました。

一方で、施策シートでは新しいことを盛り込まれています。これは、施策シートを記載する方と施策方向性シートを記載する人が違うからこうなるのだと思います。今回の審議会では、施策シー

トをみることになっていますが、施策の方向性シートの評価があって、施策シートで評価ができるため、施策の方向性シートは今一度点検し、確かな文章にさせていただきたいと思います。

委員

施策の方向性シートの基本的なところについてですが、2022年度の目標値は5年前に一括して策定したものでしょうか。そのため、2022年度の実績値とはかかなり乖離しているものが多いわけですね。それを単に、達成、未達成だからといって評価の指標にしにくいという現実もあるという認識してよろしいでしょうか。

事務局

おっしゃるとおりです。

委員

施策シートの書きぶりについては、非常に決意表明的な書きぶりが色濃いという印象を受けます。豊中市の別の委員会でここに該当するところに参加をしているため、記載されている事業について詳しく知っている部分がありますが、もったいない書きぶりになっていると感じると同時に、出来たことを表現することに一生懸命になっていると思います。やるべきことや課題はわかっているが、その課題を乗り越えることが難しいこともあるため、市民に対して、はっきりとその課題を乗り越える難しさを示していくことも大切だと思います。この施策シートからは、その大変さが見えてこないです。

部会長

担当課で相談したうえで、今年度一番アピールしたいことを決めていただければ、打ち出すことができますが、現状は寄せ集めになっています。そうすると全ての取組みがまんべんなく書かれてしまうため、せっかくなにかいいことをやっても、書いてあるものの抽象度が高くなり、それが表に出づらくなります。

施策シートの○6つ目は、成果がしっかり記載できています。具体的な数値を表現できているのはここだけであるため、別々の人が書いたものを寄せ集めて作っているように思ってしまう。全体を見渡すのは部長の役割になるかと思いますが、全体が整っているかどうかの調整をしていただきたいと思います。しっかり書けているところはあるので、そこを見本に、他も書き直してもらうと、よかったのではないかと思います。

委員

施策シートの最後の文章は、福祉部の地域共生課の機能について記載されており、これは市の内部の仕組みについての記載になっています。大事なのは、市の内部の仕組みをどうするかではなく、多機関連携できる仕組みをつくることによって、地域の人々にどうしていきたいかということだと思います。

部会長

この施策シートのマネージメント部局として地域共生課があるのだとすれば、その書きぶりを加えれば、地域共生課がコントロールタワーとなって進める、という形でよりわかりやすくなったのではないかと思います。

委員

施策シートの〇一つ目の3行目に、コーディネーター機能の強化という言葉は出てきていますが、強化した結果、何を狙っているのかなど、そのあたりが見えてこないため、地域共生課が頑張るという話に見えてしまいます。

部会長

第2章の1(3)の施策の方向性シートの指標を拝見していると、「ライフスタイルに応じた生活ができると思う障害者の割合」がありますが、これの目標値が60%で、2019年度に63%まで上がりましたが、2022年度に49%まで下がっています。おそらくコロナ禍で状況が大きく変わった影響だと思います。その話が、どこにも出てきません。この状況の変化はもう少し的確に評価シートにも記載し、数値の減少に対して、いかに、強化した支援で臨むかの記載が欲しかったように思います。

また、第2章の2の施策名である「自立生活支援の充実」は、豊中は、非常に頑張ってきた分野であり、成果が出てきた市ではないかと認識しています。それが中々表に出てこないのはもったいない気がします。

それでは、次に第2章の2「保健・医療の充実」のシートです。このシートにつきまして、ご質問・ご意見はございませんか。

委員

〇5つ目の文章についてですが、ここにはACPについての記載があります。また〇5つ目の2行目では、アーバンイノベーション豊中に参加したことにも触れられていますが、ここでは、アーバンイノベーション豊中に参加したよりも、ACP周知のためにボードゲームを独自に作成したということが書いていけばいいのではないかと思います。

部会長

ここは、専門用語や略語が多いように思います。

委員

第2章の2の(1)～(3)の施策の方向性シートの成果欄には成果としていくつか実施した内容が書かれているが、この施策シートは〇が6項目あります。特に多く記載されている内容が施策の方向性シート第2章の2(3)に関連する内容で、3つ含まれています。施策の方向性シート第2章の2(1)は2つ、施策の方向性シート第2章の2(2)は1つ含まれています。施策シートに示されている6項目は、一番成果があった項目なのかなと思いますが、なぜこの6項目なのか、何も説明がありません。これは、基本的に、特に成果があった項目を総合評価へ記載するというルールのもと、記載されているという認識でよろしいでしょうか。

事務局

基本的には、網羅的に書くのではなく、トピックや成果が出て取組みを選んでそれを中心に書いて頂くようお願いしています。

委員

わかりました。

部会長

ここは記載の順番も工夫いただくといいと思います。そうすることでよりストーリーがわかりやすくなるのではないかと思います。例えば、ACPの啓発についてでいくと、将来自分自身が病気になったり介護が必要になったりしたときに備えて、医療やケアのことなどについて、あらかじめ考えてもらうことだと思いますので、健康維持のための内容と順にならべて記載するなどして、ストーリーが見えればよりわかりやすかったのではないかと思います。

委員

第2章の2(3)の施策の方向性シート(地域医療の充実を図ります)についてですが、成果をみると3つのうちの2がACPについて、1つがコロナウイルス感染症についてです。市民が関心をもつ地域医療の取組みについて、施策シートへの記載が、ACPについての2点だけでは、少し偏りがあるように思います。

医療介護関係者の研修会や意見交換会に関する記載が第2章の2(3)の施策の方向性シートでいうと1行目、第2章の2の施策シートの○4つ目あります。研修会や意見交換会の開催について触れるだけでなく、例えば、地域医療や保健に関わる人の連携を進めネットワークを強化したという内容を、別項目としてしっかり書いてもいいのではないのでしょうか。施策シートでは、医療介護関係者の研修会や意見交換会に関する記載とACPの内容が一緒に記載されているため、ACPの記載は整理された方がいいのではないのでしょうか。ACPは人生の長い期間において考えていった方がいい取組みではありますが、まだまだ世の中では終末期、高齢期の取組みと認識されていますので、多くの市民に必要なところでいうと、このウエイトは減らしてもいいのではないかと思います。

委員

第2章の2(3)の施策の方向性シートについてです。このシートの指標は、2つは在宅医療に関する指標で、残りの2つは病診連携をどのようにとっていくかを図る指標になっています。4つの指標から見えてくるこのシートの目指す姿は、一つ目は、なかなか難しいけれど、在宅で見取りを選択する人を支えていける地域の医療機関をしっかりと開拓し在宅医療をしっかりとやっていくこと、2つ目は、地域医療機関と市立豊中病院の分業をしっかりとつくっていくことにより、病診連携をしっかりとやっていくことだと思います。それが本来のこのシートの目指す姿だと思うと、成果として書かれていることはずれているように思います。担当局はどのような想いでこれを書いているのでしょうか。

事務局

今回、ACP を重点的に書いているのは、新たな取組みであるためです。在宅医療、地域医療の連携については、取り組みは進めているところではありますが、昨年度については特筆すべき大きな動きがなかったため、この優先順位で記載されています。

委員

病診連携については、この指標から読み取るに、地域医療と豊中病院の上りと下りの流れが出来ており、いい流れを作れていると思います。

ACP の啓発は、在宅医療を選択する人が出てきたときに、それを妨げないためにも、ACP 啓発を進めていくという認識でよろしいでしょうか。

事務局

ACP は人生設計の中でどういうふうに通期を迎えるかについて、早い段階から考えてもらうための取組みです。在宅医療につきましては、それを担っていただける医療機関の体制、医師の高齢化等問題もありますので、いかに在宅医療体制を構築していくかが課題であると認識しています。

委員

そういった意味で行くと、在宅医療体制の構築はかなり難しいことであり、市としてはそれを希望する市民がいた場合でも、できるだけ支えられる体制を現在構築中であるという指標であると理解しました。

部会長

先ほどもお伝えしたように、委員や市民の方が知りたいことを評価前にお伝えしていただくと、書きぶりにも反映できるのかと思います。

終末期医療を在宅でという話でいくと、地域包括ケアの話につながってきます。この施策シートは、保健・医療の話になりますが、保健・医療・福祉が連携してこそ、そういった人生が送れます。そうすると、保健・医療に加えて、福祉の関係の中で、在宅医療がどう進むのかを知りたいと思います。

さらに、今年コロナは2類から5類になりました。このタイミングで専門病院が集中的にみるという体制ではなくなったと思います。コロナ患者さんの地域医療機関との連携が必要になると思いますので、それが上手く行ったのかは今年度の評価の際に知りたいと思います。

細かな話でいきますと、マイナ保険証の普及により、地域医療機関の負担感も増えていると聞きます。そういった身近な病院のDX化を支援できているのかどうかは気になる点です。ささいな話ですが、市民視点から、そういった観点での評価があってもいいと思います。

次に第2章の3「消防・救急救命体制の充実」のシートです。このシートにつきまして、ご質問・ご意見はございませんか。

ここはいつもモデルとして、よく書けているシートになっています。

次に第2章の4「暮らしの安全対策の充実」のシートです。このシートにつきまして、ご質問・ご意見はございませんか。

ここもエピソードを載せており、わかりやすく記載されていると思います。もう少し量的なエビデンスがあればわかりやすくなるのではないかと思います、全体的に分かりやすいと思います。

そうしましたら、ここから第5章です。第5章の1「情報共有・参画・協働に基づくまちづくり」のシートです。このシートにつきまして、ご質問・ご意見はございませんか。

ここは、広報、広聴、協働がそれぞれつながっており、この施策にまともっていると思います。その観点でもう少しストーリー立てて記載できるとよかったですのではないかと思います。まず広報や広聴で情報共有し、市民と一緒に参画協働が進む基盤づくりをする。その情報共有ができていからこそ参画協働が進むというストーリーになっていると思いますので、この順番を工夫するとストーリーができ、つながりが見えるのではないかと思います。

委員

施策シートの○4つ目に、地域自治の取組みについての記載があります。校区ごとの取組みは書かれていますが、地域自治組織の形成の狙いとしていた福祉や教育、防犯に対して、どんな効果があったのかが示されていません。そこがわかると、参加してみようかなという想いになるので、やはりアウトカムまで書いて頂くと理解が深まっていいのではないかと思います。

部会長

地域自治組織の形成に向けた支援については書かれていますが、地域自治組織の形成によって出来たプラス面の成果は記載されていません。これまでの自治会や単独組織ではなく、地域自治組織としてまとまったからこそ、こういうことが動きましたなど、エピソード的なものがあればより良かったのかと思います。

施策シートの評価の最後から2行の文章に「時代に合った地域づくりを進め」とありますが、抽象度が高いと思います。時代にあったというのはどういうことなのか、もう少し具体化できると思います。例えば、行事をやることが目的化している地域自治組織に対して、地域参画型でワークショップでの課題共有、それに基づいて、どのような課題解決を行っていくような形を作れたらいいと思います。役割が回ってきたら、やることは全部決まっていて、それを1年間こなすことが役員の役割になっているケースが多いです。何が時代に合っていないか、時代に合わすとはどういうことなのかを示していただくといいのかと思います。抽象度に逃げないことは大切です。

次に第5章の2「持続可能な行財政運営の推進」のシートです。このシートにつきまして、ご質問・ご意見はございませんか。

ここはAということですが、課題もなく、このまま今年度も続けていけばいいという認識でよろしいでしょうか。

事務局

基本的には、今まで様々な取組みをしていく中で、財政のところも、ただスクラップするのではなく効果を生むために創る改革を実施してきました。そういったことを引き続きやっていくというところでございます。

部会長

第5章の2(1)の施策の方向性シートの指標の行政手続きの電子化が100%達成しているのはすごいことだと思います。これはすべて電子化できたということによろしいでしょうか。

事務局

一部法的に制約があり、出来ないものを除いて基本的に全庁の中で制約がないものは電子的に申し込みが出来るようになりました。

部会長

わざわざ市役所に行く必要がなくなったということですので、市民にとっても、とてもアピールになることだと思います。もっと誇ってもいいことかと思えます。

委員

電子化されたことによって、サーバーが止まる等のトラブルや停電への対応、情報流出への対策はされているのでしょうか。

事務局

基本的には停電に対応できる体制をとっています。また、個人情報を含むものもありますので、セキュリティ対策も講じております。

委員

この施策シートは、1項目ずつ別の方が書かれているのでしょうか。一つの〇にPDCAの内容がまとまって記載されています。それぞれのご担当の方が施策の方向性シートの短縮し、施策シートへ記載されているのかなと思いました。その場合、全体的に文字も多くなるので、もう少し整理されてもいいのかと思いました。

事務局

取りまとめの仕方は特にルールを設けていません。取りまとめ部局と相談して作成するものもあれば、担当課からの案を取りまとめ課が整えるケースもあります。基本的には、〇ごとにPDCAを書いてくださいと依頼しています。全体のボリュームの関係等ですべてが同じ書きぶりにできていないというところは事務局として課題認識しています。

部会長

ここは施策の方向性シートが4つあり、それぞれの方向性ごとに評価が書かれていればいいと思いますが、第5章の2(1)、(2)の施策の方向性シートは施策シートでどのように整理されているのでしょうか。

事務局

第5章の2(2)については、非常に粒が細かいため、第5章の2(1)の内容と合わせて〇一つ目、二つ目に書いています。公共施設は老朽化する施設が直近の間に多く出てくるということで、財政面に与える影響も大きいことから、それに絡めて記載しています。

部会長

以上で、全シートを見ましたが、この他、本日見たシートの中で、言い足りない部分はございませんか。

委員

評価をされる際には、D0の抑制をするといいと思います。各施策は、社会全体によいインパクトを残して変えていくことが本来の目的かと思いますので、取組みの結果どうなったのか、ターゲットとしている人がこう変わったというアウトカムを書くことをより強く意識してほしいと思います。事業の専門用語を多く並べても、かえってわかりづらくなるため、今一度、D0ではなく、成果を意識してほしいと思います。

部会長

第1章の2は教育の施策になりますが、学校現場として公平平等を意識されているので、何かトピックだしして書くことが従来からできにくい環境なのかと思います。

委員

今年やった施策がそのまま結果につながりにくいという特性はあると思います。

部会長

ここ最近では、学習指導要領の改訂やギガスクール構想で学校現場に大きな変化があったと思いますが、どういう変化があつてどんな課題が残ったのかも知りたいと思います。もう一つは働き方改革です。こういった面ももっと表に出してほしいと思います。この数年間の中でいくつかのトピックはあると思うので、粛々とやっていることは落とし、メリハリをつけていくことでよりわかりやすい評価シートになるのではないかと期待しています。

■案件2. その他

(連絡事項「今後の日程について」説明)

部会長

すべて終了いたしましたので、これをもちまして豊中市総合計画審議会第1回第一部会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

(以上)